

チーム「羊の子」による

「探究学習」協業者：社会福祉法人 名古屋市身体障害者福祉連合会 第一ワークス訪問

私たちチーム「羊の子」は制服作成時に出る端切れをペンケースやトートバッグにアップサイクルする活動に取り組んでいます。

令和8年9月3日（木）の午後に、私たち探究チーム「羊の子」の商品の制作をしていただいている「名古屋市身体障害者福祉連合会」を訪問しました。

初めに、サービス管理責任者の伊戸田さんに施設を案内していただき、就労継続支援B型作業所の方たちが作業されている様子を見学しました。就労継続支援にはA型とB型があり、その違いは、「雇用契約を結んで働くかどうか」です。A型は主に一般企業での雇用は難しいものの、雇用契約を結んで働くのが可能な方が対象となります。B型は雇用契約に基づく就労が難しい方で最低賃金の対象外になるとのことでした。井戸田さんによると、こちらの施設は創業45年を迎え、初期のころはミシンがずらりと並んでいたそうです。しかし現在は、海外へ縫製を依頼する会社が増えるなど流通が変わり、必然的に内職作業が中心になっていったとお話しされていました。

作業場へ進むと、利用者の方たちが布をミシンで縫っていました。4名中3名が聴覚障害とのことで、手話で会話していました。私も「羊の子」の活動でシュシュをミシンで作っていますが、皆さんの縫うスピードの速さに圧倒されました。特に数センチ縫うごとに定規できっちり測りながら縫う姿に感心しました。また、別のエリアでは縫い終わった製品に粘着ローラーをかけ、検品している方が数名いらっしゃいました。お話を伺うと、製品についた埃を取り除いたり、糸のほつれを切ったりしているのだそうです。毎日作業終了後には大きなビニールをかぶせて埃除けをしているとのことでした。

見学を終えた後は、「羊の子」のトートバックの注文個数と納品日の打ち合わせを行いました。井戸田さんに、「何事も無理を言うてみるぐらいがちょうどいい。若いうちは多少の失礼や失敗は許されるから、言わないよりもまずは言ってごらん。」と優しい言葉をかけていただきました。実際に訪問しなければ分からなかったことを多く学び、非常に貴重な経験となりました。この経験を生かして、これから参加する企画やイベント、大会で「羊の子」をより多くの人に知ってもらえるように頑張ります。

津島高校 探究チーム「羊の子」2年 O.Y

